

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23221001	研究期間	平成23年度～平成26年度
研究課題名	アジアのエアロゾル・雲・降水システムの観測・モデルによる統合的研究	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	近藤 豊 (東京大学・大学院理学系研究科・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

自然起源エアロゾルと人為起源エアロゾルが、アジアの海洋上で変化し、降水で除去される過程に対して的確に研究計画を進展させていて、航空機観測を含めて得られた観測結果を解析し、その機構を解明するシミュレーション研究を着実に進めていると判断できる。前回の基盤研究（S）や他の研究費による研究成果を含めて融合的に研究を推進することに成功している。研究成果の積極的な公表もなされ、研究目的の達成が見込まれる。エアロゾルと雲・降水の間の数値モデル研究の進展に関する記述がやや少ないので、この点の進行管理を的確に行うことが期待される。

なお、研究期間終了に向けて、炭素を含むエアロゾルが気候に対する（冷却・加熱）の評価を行うことで、社会的関心の高い環境問題の学術的解釈をまとめて発信してほしい。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	アジア域におけるエアロゾルの観測によるデータの取得に加え、エアロゾルの雲・降水システムへの影響についても数値モデルなどにより分析が進み、当初の予定どおりの成果が達成された。 また、学術的発信についても進んでいると評価できるが、得られた知見は社会的にも重要な意味を持つことから、学術的発信に加えて、シンポジウムや解説論文などによる一層の社会的周知も望まれる。